

スケジュール

14:30—14:40	開会あいさつ、出席者紹介 企画趣旨 川瀬智之(東京藝術大学)
14:40—15:00	川瀬智之(東京藝術大学) 「李禹煥の芸術論とメルロ＝ポンティの哲学」
15:00—15:20	平倉圭(横浜国立大学) 「接続詞内部のランドスケープ——ドゥルーズ以降のゴダール」
15:20—15:40	金子智太郎(東京藝術大学) 「生成音楽のバリエーション——生成音楽ワークショップの実践」
15:40—16:00	休憩
16:00—17:00	討論
17:00	閉会
18:00—	懇親会(会場:東京藝術大学)

司会

林 卓行(玉川大学・准教授)

美術批評/現代芸術研究。著書に『ウォーホル(西洋絵画の巨匠9)』(小学館、2006年)ほかに美術批評多数。

報告者

平倉 圭(横浜国立大学・准教授)

芸術論・知覚論。著書に、『ゴダールの方法』(インスクリプト、2010年)、『ディスポジション:配置としての世界』(共著、現代企画室、2008年)、『美術史の7つの顔』(共著、未来社、2005年)。主な論文に、『断層帯を貫通する——『熱線丹那隧道工事写真帖』』(『photographers' gallery press』、no.11、2012)、『多重周期構造——セザンヌのクラスター・ストローク』、『ユリイカ』、2012年4月号)、『識別不可能性の(大地)——シル・ドゥルーズ『シネマ 2\*時間イメージ』』(『思想』、vol.999、2007年)。

川瀬 智之(東京藝術大学・准教授)

美学。主な論文に「メルロ＝ポンティの思想における絵画の様式と歴史性」、『美学』、220号、2005年。「シェリングとメルロ＝ポンティ——『野生の原理』と知覚の時間性——」、『シェリング年報』第14号、2006年。『『奥行き』における『同時性』——メルロ＝ポンティの時間論の展開』、『美学』、229号、2007年。「メルロ＝ポンティの絵画論——『志向的形象の魔術』と『タブローの持つ力』——」、『美学芸術学研究』26号、2008年。「メルロ＝ポンティの美術論——奥行き・運動における同時性——」、『美学芸術学研究』28号、2010年、他。

金子 智太郎(東京藝術大学・教育研究助手)

美学、聴覚文化論。現在は主にアンリ・ベルクソンの感性論、およびサウンド・アートを研究対象とする。2010年より城一裕と「生成音楽ワークショップ」を共同主催。著書に『iPhone x Music』(共著、翔泳社)。主な論文に「ベルクソン哲学における聴覚的主体」(『東京藝術大学美術学部論叢』6号、2010年)、「ベルクソンにおける通信メディアモデルの感性論」(『東京藝術大学美術学部論叢』7号、2011年)。音楽雑誌「アルテス」で海外サウンド・アート関連書籍の書評を担当。

お問い合わせ

美学・藝術論研究会事務局

東京藝術大学美術学部芸術学科美学研究室内

東京都台東区上野公園12-8

050-5525-2250(内3820)

交通案内

東京藝術大学 上野キャンパス

中央棟2階 第3講義室

[JR]

上野駅・鶯谷駅から徒歩10分

[地下鉄]

銀座線・日比谷線上野駅から徒歩15分

千代田線根津駅から徒歩10分

[京成電鉄]

京成上野駅から徒歩15分

[都営バス]

上26系統(亀戸↔上野公園) 谷中バス停から徒歩3分

[台東区循環バス]

東西めぐりん東京芸術大学バス停下車すぐ

